

平成 30 年 6 月 19 日現在

機関番号：44521

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2017

課題番号：26780510

研究課題名(和文) 小学校における総合芸術教育テキストの開発

研究課題名(英文) Development of a Integrated Arts Education Textbook in Elementary school

研究代表者

井上 朋子 (INOUE, Tomoko)

兵庫大学短期大学部・短期大学部・准教授

研究者番号：40636594

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、小学校において音楽、造形、身体、言語領域を総合的に用いた芸術教育を実施するための児童用ワークブック及び指導書を作成することである。

まず、日本及び諸外国の教科書及び教材集等の中から、総合芸術教材を抽出すると同時に、教員対象とした研修を調査し、現状を把握した。次に、教材を開発するとともに、教員研修や講習会で、試行実践し、妥当性を検討した。最終的には、収集した教材と開発した教材を基に、児童用の総合芸術教育ワークブックを執筆した。このワークブックは、保育者・教員を目指す学生や現職教員も使用できる汎用性のあるものとし、今後、学校教育において総合芸術教育を普及させるための教材とした。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to make children's workbooks and guidance books for the implementation of arts education using music, modelling, body and linguistic fields in elementary school.

First of all, I extracted the integrated art materials from the textbooks and teaching materials in Japan and other foreign countries and investigated the training for the teachers to bring out the current situation. Next, I developed the teaching materials and examined the validity by the trial practice in the teacher training and the lecture session. In the end, I made the two integrated arts education workbooks for children based on the materials I had collected and developed.

These workbooks are also intended to be used by students who aspire to be teacher and in-Service teachers, and these are teaching materials to disseminate integrated arts education into school education in the future.

研究分野：音楽

キーワード：総合芸術教育 五感 音楽 造形 身体 言語 感性 表現

1. 研究開始当初の背景

幼稚園教育要領では、平成元年に芸術表現に関する領域であった「音楽リズム」と「絵画製作」が「表現」という一つの枠組みの中に包括された。また、小学校教育でも、音楽科、図画工作科ともに総合的な芸術に関連する教材数が近年増加していた。これは、幼稚園教育では音楽や造形等のように領域別に指導するのではなく、幼児の未分化性を重視し、様々な経験や活動を総合的に取り扱うこと、また小学校教育では、感性や五感を用いた教育を行うことが目指されたからである。

その結果、現在、一部の保育士・教員養成大学では、領域および教科別に行われてきた芸術分野を見直し、音楽及び美術分野に他領域を取り入れたり、また美術分野と音楽分野の教員が連携したりすることによって、造形表現や音楽表現、言語表現、身体表現等を総合的に取り入れた総合表現や表現教育のカリキュラムの開発及び実践が行われていた。

しかしながら、実際に教育現場で行う際には、総合芸術教育に関する指導内容が発達段階別に記された教科書や教材集がなく、教師が学年発達に合った活動内容やその目的を理解しにくい状態であった。そのため、結局、教育現場では浸透しにくい状況であった。

一方、アメリカでは、音楽科教師用指導書に他教科との具体的な関連内容が記されている他、中国では、音楽、美術の教科とは別に芸術という科目が設けられており、そこで音楽や美術領域を越えた芸術学習が行いやすいように工夫されている。また、イタリアには、身体、動き、ことば、音・音楽、ドラマを取り扱った教育が舞台芸術(テアトロ教育)として普及している州もある。それ

に対し、日本では、近年、音楽・美術・言葉・身体を総合的に扱った芸術教育の必要性が謳われているにもかかわらず、総合芸術教育に関するカリキュラム、教科書、指導書が普及していないのが現状であった。

2. 研究の目的

(1) 音楽、造形、身体、言語領域を総合的に扱った芸術教育に関する教材を収集し、小学校で実践可能な総合芸術教育の活動内容とその指導方法を開発すること。

(2) 開発した総合芸術教育に関する教材を内容別に分類し、小学校教育現場で用いるための総合芸術教育児童用ワークブック及び指導書を作成すること。

3. 研究の方法

(1) 日本及び諸外国の現行の教科書及び教材集等の中から、現在行われている総合芸術教材を抽出し、類型化する。

(2) 教員対象とした総合芸術教育に関する研修を調査し、現状を把握するとともに、課題を見出す。

(3) 総合芸術教育に関する新しい教材を開発するとともに、教員研修や講習会で、試行実践し、妥当性を検討する。

(4) これまで収集した教材と自ら開発した教材を、内容別に配列し、児童用の総合芸術教育ワークブックを執筆するとともに、指導書を作成する。

4. 研究成果

(1) 日本及び諸外国の現行の教科書及び教材集等を調査するとともに、総合芸術教育に関連する学会や講習会に参加

することで、総合芸術教育に関する教材を数多く収集することができた。また、音楽、身体、言葉を中心とした総合的な芸術教育を行っているモーツアルテウム音楽院オルフ研究所（オーストリア）では、大学の授業カリキュラムに総合的な芸術教育に関する演習科目や実習科目が充実していることも分かった。各国の教材を調査し、比較したことから明らかとなったのは、日本における総合的な芸術教育に関する教材には、教材間の関係性や系統性が見られなかったことである。そこで、児童自身が総合芸術教育の分野を意識しながら系統的に学習できるような教科書や教材集が必要であることが分かった。

（２）教材収集をする一方で、総合芸術教育に関する教員研修の調査を行った。全国の都道府県及び政令指定都市で行われている教員研修を調査したが、総合的な芸術教育が取り入れられている研修はほぼ見られなかった。以前の調査で、カリキュラムに取り入れている教員養成系大学も数少ないことを確認しているが、総合芸術教育を普及させるには、児童用ワークブックと同時に教員が実践しやすい指導書も必要不可欠であることが分かった。

（３）これまでに収集及び開発してきた教材を基に、『感じる力・表現する力を高めるための総合的な芸術教育ワークブック１』と『感じる力・表現する力を高めるための総合的な芸術教育ワークブック２』を作成した。～の７つの項目別に教材を配列し、各教材にはねらいを記した。内容は下記の通り。

『感じる力・表現する力を高めるための総合的な芸術教育ワークブック１』

- ・ 出会いを楽しむ
 - 1. 互いを知る①
 - 2. 伝える
 - 3. 音楽で遊ぶ
 - ・ 感覚をひらく
 - 1. サウンドマップ
 - 2. 耳を澄まして
 - 3. みる・見る・視る
 - ・ 描いて楽しむ
 - 1. 色マップ①
 - 2. 絵からイメージする
 - 3. 線に気持ちを込めて
 - 4. ペアで描く
 - ・ 音で楽しむ
 - 1. 音楽用語を線に表す
 - 2. 音楽用語を色・形に表す
 - 3. 音楽用語・記号を感じて
 - 4. アルファベットを用いた音楽づくり
 - ・ 五感を使って
 - 1. 感覚をつないで
 - 2. 味を思い出す
 - 3. においからイメージを膨らます
 - ・ 身体・言語を使って
 - 1. 絵のイメージを伝える
 - 2. オノマトペ・ジェスチャーゲーム
 - 3. オノマトペを色・線・形に
 - 4. 文字を感じる
 - ・ 音楽と造形をつないで
 - 1. 足音を描く
 - 2. 楽器の音を描く
 - 3. 音のないものの音を描く
 - 4. 音楽に合わせてドロ잉する
 - ・ まとめ
 - 1. 活動を組み立てる
 - 2. 活動をふりかえって
- 『感じる力・表現する力を高めるための総合的な芸術教育ワークブック２』
- ・ 出会いを楽しむ
 - 1. 互いを知る②
 - 2. 絵で自己紹介

3. ペアの顔
 - . 感覚をひらく
 - 1. 触れ合って
 - 2. 手触りをもとに
 - 3. 重さ・音の高さを感じて
 - . 描いて楽しむ
 - 1. 色マップ②
 - 2. 線で描く
 - 3. ペアでキャラクターをつくる
 - 4. キャラクターをつくる
 - . 音で楽しむ
 - 1. 絵・図形を音にする
 - 2. 音楽のイメージを描く
 - 3. さいころで音楽づくり
 - 4. CMにBGMを
 - . 五感を使って
 - 1. 絵を五感で鑑賞する
 - 2. 味からイメージを膨らます
 - 3. 冷蔵庫マップ
 - 4. おいしお店のにおい
 - . 身体・言語を使って
 - 1. キャッチボール
 - 2. 身体から出る音を見つける
 - 3. オノマトペアンサンブルをつくる
 - 4. 印刷物から詩をつくる
 - . 音楽と造形をつないで
 - 1. 音楽を絵で表現する
 - 2. 模様・パターンの発見
 - 3. 図形（絵楽譜）をつくって演奏する
 - 4. ミュージックポスター
- . まとめ
 1. 活動を考える
 2. 活動をふりかえって

このワークシートを用いることによって、児童自身が音楽、造形、身体、言語分野における共通性や関連性、五感の相互性等、総合芸術教育の分野を意識しながら学習できるほか、芸術に対するものの見方を広げることができるようになっている。ま

た、音楽科及び図画工作科等の教科内では取り扱いにくかった五感を往還させた活動や領域横断的な活動を通して、音楽及び造形能力とはまた別の感性の覚醒、コミュニケーション能力の育成にも生かすことができるようになっている。

さらには、このワークブックは保育者や教員を目指す学生教員用としても対応しており、このワークシートを使用することによって、これまで一部の教育現場でしか行われてこなかった総合芸術教育を浸透させることができると期待している。

当初作成予定であった指導書は、研究分担者として研究を進めた基盤研究(C)「総合的・領域横断的な芸術表現教育」の指導者養成に関する実証的研究(課題番号26381200)の研究成果報告書の中で執筆している。ワークブックとこの報告書を用いることで、教育現場の教師は、総合芸術教育の活動内容及び指導法を把握できるようになっている。

<引用文献>

初田隆「『総合的な芸術教育プログラム』の開発」美術教育学会誌、第31巻、2010、pp.291-304

山野てるひ他「音楽と造形の総合的な表現の可能性『保育内容指導法(表現)』の授業における試み」、京都女子大学発達教育学部紀要、第5号、2009年、pp.121-135

井上朋子、初田隆「小学校教員養成課程における美術と音楽の総合的・領域横断的な芸術教育の現状と課題」、美術教育学会誌、第35巻、2014、pp.107-121

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計3件)

初田隆、井上朋子、木下千代「総合的・領域横断的な芸術教育に関する教員研修プログラムの開発(3)」美術教育学会誌、査読有、第38巻、2017、pp.381-394

井上朋子、初田隆、木下千代「総合的・領域横断的な芸術教育に関する教員研修プログラムの開発(2)」美術教育学会誌、査読

有、第 37 卷、2016、pp.105-117

井上朋子、初田隆「総合的・領域横断的な芸術教育に関する教員研修プログラムの開発(1)」、美術教育学会誌、査読有、第 36 卷、2015、pp.57-70

DOI

http://doi.org/10.24455/aaej.36.0_57

〔学会発表〕(計 1 件)

井上朋子 研究報告「オルフ研究所を訪ねて」感覚をつないでひらく芸術教育を考える会研究発表会、2016 年 3 月 28 日、京都市北文化会館

〔図書〕(計 3 件)

井上朋子「感じる力・表現する力を高めるための総合的な芸術教育ワークブック 1」2018 年、27

井上朋子「感じる力・表現する力を高めるための総合的な芸術教育ワークブック 2」2018 年、28

初田隆、木下千代、井上朋子『『総合的・領域横断的な芸術表現教育』の指導者養成に関する実証的研究 研究成果報告書』吉本宝文堂、2018 年、153

6. 研究組織

(1) 研究代表者

井上 朋子 (INOUE, Tomoko)
兵庫大学短期大学部・保育科・准教授
研究者番号：4 0 6 3 6 5 9 4

(2) 連携協力者

初田 隆 (HATSUDA, Takashi)
兵庫教育大学・学校教育研究科・教授
研究者番号：6 0 2 7 3 8 1 9

木下 千代 (KINOSHITA, Chiyo)
兵庫教育大学・学校教育研究科・教授
研究者番号：7 0 2 5 2 8 2 2